



未来を見据え、自ら努力し創造する自治体へ
そして、民意を反映した市政の実現に

松原市議会議長
永田 光治



新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様方におかれましては、希望に満ちた輝かしい平成30年の新春を健やかに迎えのことで、心からお慶び申し上げます。

旧年中は、市議会に対しまして、格別のご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、アメリカのドナルド・トランプ大統領の就任や韓国の文在寅大統領の就任で日米韓の関係が新たな幕開けを迎え、北朝鮮の度重なる中距離弾道ミサイル発射が国際社会に大きな脅威を与えるなど、国際情勢が激動した年でありました。

また、国内では、多くの被害を出した九州北部豪雨や相次ぐ台風の接近など自然災害の脅威を改めて感じました。一方で、スポーツの世界では、平野美宇さんがアジア卓球選手権女子シングルで、日本人としては21年ぶりに優勝し、将棋の世界では藤井聡太さんが史上最年少で四段昇段を決めるなど、子どもたちが将来に夢を膨らませる明るい出来事がありました。

さて、経済の世界に目を移すと、日経平均がバブル崩壊後の最高値を更新するなど、新聞などでは、景気が良くなっているという記事を目にしますが、日々の生活の中ではまだまだ実感できないのが実情であります。地方分権や地域主権など「地方の時代」と言われて久しいですが、人口減少時代における自治体の役割は、自己決定・自己責任による行政運営であり、未来を見据え、自ら努力し創造する地方自治が求められています。

また、住民に最も身近な総合的な行政主体である基礎自治体として、自主的・主体的に地域の活性化のための施策に積極的に取り組む必要があります。

市議会といたしましても、議事機関としての役割はもとより、政策立案機能や監視・評価機能などの充実強化を図り、民意を的確に反映した市政の実現にこれまで以上の決意で邁進してまいります。

どうか、本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、この一年が市民の皆様方にとりまして幸多き年になりますよう心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

もっと先に、さらに前へ



松原市長
澤井 宏文



新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私は昨年5月、市民の皆様のご信託を受け、引き続き3期目の市政を担当させていただくことになりました。新たなステージとしてこれまでの取り組みをさらに推し進めるため、引き続き市民の皆様との協働により日本一のまちをめざし、松原市の未来のために

「働きながら、子育てしやすいまち まつばら」

「躍動するまち まつばら」

「安心・安全快適なまち まつばら」

「徹底した経営改革のまち まつばら」

の4つのまちづくりをお示するとともに、松原市を『もっと先に、さらに前へ』進めてまいります。

そのような中で、人口減少・高齢化の進展という全国的な課題の中、本市におきましても同様の課題を抱かえておりますが、人口獲得に向けた取り組みや、市民の皆様との協働の取り組みをさらに深化させ、松原市の10年後、20年後、30年後、未来を見据えたまちづくりをしてまいります。

また、平成30年度の再認証を目指している大阪初のWHOセーフコミュニティ国際認証都市として、さらに、学校における安心・安全の取り組み活動によるインターナショナルセーフスクール認証取得など市民の皆様との協働の取り組みを推進し、スピードと行動力をもって市民目線に立ったまちづくりを引き続き進め、自信を持って次代を担う子どもたちに松原市を引き継ぐため、これからもあらゆる事にチャレンジしてまいります。

どうか、皆様には、今後ともまちづくりに対してご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

平成30年
新年のご挨拶